

少しだけ、立ち止まって



商学部長
河合 久
Hisashi KAWAI

ご卒業おめでとうございます。

東日本大震災で日本中が不安に包まれていた正にその時、皆さんは大学生としての一步を踏み出しました。それでもこの4年間に、皆さんは中央大学商学部というステージで人生の貴重な時間を過ごしたことに相違ありません。この4年間でなぜ貴重なのでしょうか。ゼミでの専攻分野に特化して学問に励んできた場合でも、難関国家試験の準備に専心してきた場合でも、あるいはスポーツ・文化活動に注力してきた場合でも、皆さんは中大学生であるがゆえに高いレベルの努力を求められました。その過程では、皆さんの多くが当初の目的を簡単には果たせない苦悩を味わったことでしょう。しかし、いかなる状況にも共通する事実は日々の営みが貴方自身の選択によるものであって、しかもそれについて考えることができる時間を多く持ったということです。そして、近くには利害とはおよそ無縁の友人がいたことです。その事実こそが大学生の特権であり、皆さんの貴重な財産であり、社会人として持つべき自立心と責任感の確立に繋がるのです。

日本は今、世界との関わり方を問われています。エネルギー資源をどのように確保すればよいのか。紛争の絶えない世界でどのようなグローバル化を目指すのか。考えるべき事柄は多いように思います。私たちは誰かに守られているという錯覚に甘え、安住に浸り過ぎていたのかもしれません。劇的な環境変化に適応すべく、狭い井の中からの脱却を迫られているのではないのでしょうか。この不安定な経済社会は「一度、立ち止まって考え直そう」という私たちへの問いかけでもあると思います。学生生活に区切りを打つ今日、多忙な新生活に奔走する前に、貴方が中央大学で得た具体的な財産とは何か、それらを今後の職業や人生にどのように活かすことができるのか、少しだけ再考してみてください。

最後に、これからの皆さんの人生が大切な家族と共に幸せに満ちたものであることを心よりお祈りいたします。

当たり前前のこと



理工学部長
石井 靖
Yasushi ISHII

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。長い学生生活を終えて、社会に飛び出していこうとしている皆さんに、心からの祝福を送ります。

今春大学を卒業する皆さんは、4年前、東日本大震災の直後の大混乱の中で、大学生活をスタートさせました。4月に入ってから「計画停電」で電力の供給がストップしたことは無かったかもしれませんが、節電のために駅のエスカレーターが止まっていたこともありました。当たり前前と思っていた普段の生活が、当たり前ではなくなってしまうことを経験したことと思います。そうした中で、首都圏では普段の生活が送れることに感謝して、被災地でのボランティア活動に取り組んだ人もいたかもしれません。

もう一つ、当たり前前と思っているけれど、実は必ずしも当たり前ではないことがあります。それは、大学教育を受ける機会に恵まれるということです。我が国の大学進学率は50%超とされています。つまり同世代の人の二人に一人が大学教育を受けています。しかし、逆に言えば、二人に一人は大学教育を受けることが出来なかったということになります。皆さんが大学で学ぶことが出来たのは、皆さんのご両親や周囲の方々はその機会を用意してくださったからに他なりません。特別なことを当たり前前のごとして享受できた幸運を、社会のために役立ててください。そうすることが、幸運な皆さんの責務だと思います。

門出にあたって、卒業生の皆さんが、自分の幸運に報いる気概を持って活躍されんことを願って、私からの饒の言葉と致します。卒業おめでとうございます。